

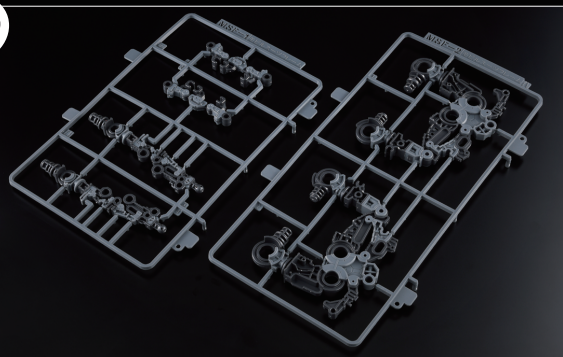


PERFECT GRADE UNLEASHED RX-78-2 GUNDAM

見せてもらおうか、 ガンプラ40周年の 集大成とやらを!

PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム
●発売元/BANDAI SPIRITS ホビー事業部 ●25000円、12月予定 ●1/60、約30cm ●ブリキ

※本記事内で使用しているものはテストショットを使用した試作モデルです。実際の商品とは異なる場合があります。



☑大型インサートフレーム

▲腰部、腕部、脚部にはガンプラ史上最大の大型インサートフレームを採用。骨格部分がほぼでき上がっていることで組み立て時間を大幅に短縮できる。実際の関節強度もかなりしっかりしている

ガンプラ40年の歴史で蓄積してきた技術と経験を礎に、「GUNPLA EVOLUTION PROJECT」で実証を重ねてきた技術を集約し、さらにこれまでのガンプラにはない新たな技術を取り入れることで結実した“40年目の究極の形”「PG UNLEASHED 1/60 RX-78-2 ガンダム」。この2020年大本命アイテムがいよいよ12月に発売となる。

発売目前となる今月号ではテストショットを使用して本アイテムに込められたさまざまな技術が実際にどのようなものなのか検証を行ってみた。前述の通りまだテストショット段階でマーキングシールも貼られていない状態だが、本アイテムの驚異の技術力と可能性を感じていただきたい。

☑コア・ファイターはコンパクトに

▶ガンダムの核たるコア・ファイターは、初代PGガンダムと比較して大幅にコンパクトになっている。ガンダムの腹部がスリムになり、さらに捻り動作までできるようになった上でコア・ファイターはランディングギアの展開まで含めて完全変形を実現しているのだから二重の驚きだ



▲非変形のコア・ブロックユニットも付属。コクピットシートは可動式の精密射撃用スコープも再現されている



☑フィギュア造形の進化

▲付属している同スケールキャラクターフィギュアの造形の精密さもBANDAI SPIRITS ホビー事業部の驚異的な技術力を証明する要素のひとつ。服やパイロットスーツのディテールや動きによるシワ、髪型から毛先の造形にいたるまで、米粒に文字を書くレベルの造形技術が詰まっている。キットには立ち姿のアムロ・レイとセイラ・マスが付属



☑PGならではのマーキングシール

▶こちらはマーキングシールを貼った完成見本画像。金属パーツやメッキパーツなどのマルチマテリアルと絡み合うことでより情報密度が高められている

☑安定感のあるシルエット

▶全体的なシルエットとしては肩幅が狭く、下半身は骨太で安定感のある印象。チラチラ見える金属やメッキパーツがほぼよい“PG感”を感じさせる。最初に目がいく頭部は小顔で引き締まったフェイスが好印象。先端に角度がついているアンテナの形状は好みに分かれそう

文/ホビー・ジャパン編集部
Written by Hobby JAPAN



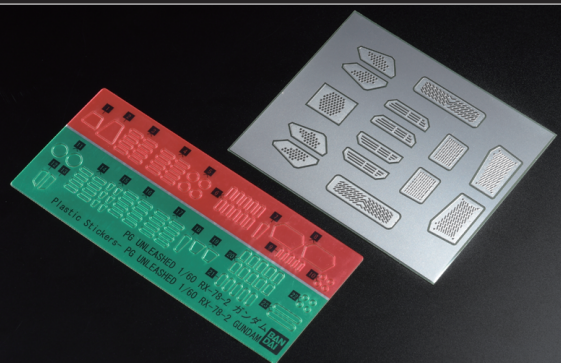
※本記事は2020年11月25日発売予定「ホビー・ジャパン 12月号」掲載記事です。



※掲載の商品画像は開発途中の素組み試作品です。

☑ マルチマテリアル

▶ 新開発素材のメタリック3Dシール(写真左)はクリアのブラブレートの裏側にラビテープを貼ったような構造をシール化したもの。主にセンサー部などに使用し、光を反射することで発光イメージを演出。同じく新素材のエッチングシール(写真右)はスケールモデルなどで使用するエッチングパーツをゲートレスでシール化したもの。エッチングパーツと比較して圧倒的に取り扱いやすい(※今回撮影したモデルにはメタリック3Dシールは貼られていません)



▲ 肩アーマー側面ダクトや胸部ダクト内側などにエッチングシールを配置。金属パーツならではの精密感がキャラクターモデルである本キットにスケールモデル的なエッセンスを加えている



▲ 頭部バルカン砲、ランドセルのメインスラスターノズルは金属パーツを使用。スケールモデルでは戦車などの砲身に金属の挽き物パーツを使用することがあるが、プラスチックでは表現しきれない“本物感”を演出している



▶ 純い金属光沢を放つバルカン砲。銃口内を黒く塗りつぶすとより質感を高められそう。側頭部のダクトや首筋のチラチラ見えるメッキパーツに色気を感じる



▶ スラスターノズルは金属パーツとクリアパーツの2層構造。その重厚感には金属パーツならではの。なぜクリアパーツなのかは後半の説明にて

☑ ガンプラ初のビーム・サーベル発光



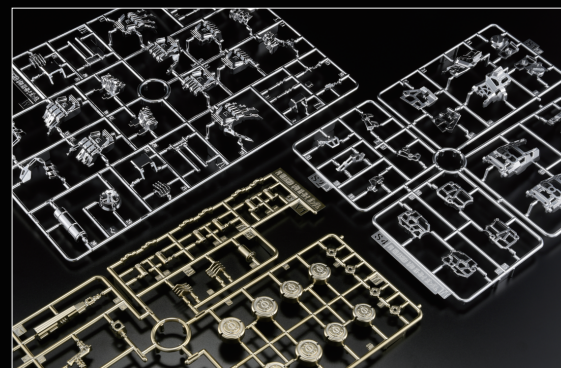
▲ ビーム・サーベルグリップ内には極小電飾ユニットと電池を内蔵しており、グリップに設けられたスイッチのON/OFFでビーム・サーベルを発光させることができる。ビーム刃パーツの成型材料にもこだわっており、鮮やかなグラデーションを実現している



40th ANNIVERSARY GUNPLA PERFECT GRADE UNLEASHED RX-78-2 GUNDAM

▶ ビーム・サーベルグリップはランドセルに収納した状態で発光させることで光が内部を伝わり、スラスターノズルを発光させることができる。これがスラスターノズルにクリアパーツを使用している理由だ。ちなみに発光ユニット内蔵サーベルグリップは1本のみで、その1本で左右のノズルを発光させる仕組みになっている

☑ 3種のメッキパーツ



▶ ツヤありシルバー、ツヤなしシルバー、ツヤなしゴールドの3種のメッキパーツを採用。部位によって色や質感を使い分けることで視覚的に単調にならないよう配慮されており、どの角度から見ても楽しむことができる

▶ 腕部はヒジ関節にツヤありシルバー、ツヤなしゴールド、前腕インターアーマーにツヤなしシルバー、ハンドパーツにツヤありシルバーと、メッキパーツをふんだんに使用している



▲ ハンドパーツは内部にツヤありメッキを採用した2層構造をとっており、固定パーツのみとなっている。ハンドパーツにいたるまで金属的な質感が高められている



▲ ヒザ関節もツヤありシルバー、ツヤなしゴールドを採用。このメッキパーツにひと手間加えてみるのもよいのではないだろうか



☑ 初代PG RX-78-2 ガンダムとの比較

▲▼ 初代PG RX-78-2 ガンダムとの比較。上半身は頭や肩が小さくなり、胴体はスリムになっている。胸部ダクトが外側に広がる形状はこれまでにはない表現だ。下半身は太もものテーパや、ふくらはぎとスネのくびれの高低差など、よりグラマラスな形状になっている





☑ 全身53か所のハッチオープンギミック

▲▶ 初代PG RX-78-2ガンダムとのハッチオープンギミック比較。ハッチオープン箇所が圧倒的に増えたことはもちろん注目ポイントだが、それ以上に、本体のメカニカルパーツ、トラスフレームという通常時は見えていなかったものが見えた瞬間の感動は実際に手に取って初めて実感できるものとなっている



40th ANNIVERSARY GUNPLA PERFECT GRADE UNLEASHED RX-78-2 GUNDAM

☑ “本物”がそこにある

実際に手にしてみても感じたことは、本物を作り上げようという強い意志。プラキットでありながら、既存の型にとらわれることなく積極的に異素材を取り入れることでプラスチックだけでは表現しきれない領域に到達している。それでいて、組み立て済みのインサートフレームや、誰でも扱いやすいエッチングシールの採用など、組み立ての敷居を下げる努力も忘れていない。価格面だけを見てしまうとなかなか手を出しづらいものではあるが、それだけの技術や想いが込められていることもまた事実と言える。

本アイテムが40年目という節目を飾り、40年の集大成として相応しいものであることは間違いない。今後このガンプラが後に誕生するガンプラにどのような影響を与えることになるのか興味がつきない。

